

## レーザーコンパス

## レーザーと未来社会

中井 貞雄\*

Sadao NAKAI\*

初夏の昼下がりに、快晴無風、快適な日であった。かなり緑の多い、住宅地の中にある小学校の近くを歩いていた。突然校内放送が聞こえてきた。光化学スモッグ警報が出ているので、運動場に出ている人は至急教室に戻るようにと、繰り返してアナウンスしている。なんとなく聞き流していたが、空を見上げ、きらきらと輝く陽光を見て、ふと気が付いた。一体これは何なのか。人が暮らしていく社会の正常な姿なのだろうか。考え出すと、なんとなく恐ろしいものに思えてきた。子供達が自由に屋外の大気と陽光に触れて飛び回れない、そんな社会が我々の目指しているものではないはずである。テクノロジーアセスメントというのがひと頃さわがれた。特定の技術やプロジェクトの社会的受容性を慎重に検討することは、その規模が大きくなるにつれ重要性を増す。自動車などは、今のままの技術では、既に社会的な受容性を越えているのは明らかである。交通渋滞や不法駐車であふれているからではない。有毒ガスによる緩慢な殺人が日々つづけられているのである。しかもその利便性を享受しているのは、他ならぬ我々なのである。特定の企業や人ではなく、システムそのものが内包する矛盾。これから我々が直面しなければならない問題、近代社会の宿命とも言うべき問題の本質はこの

あたりにあるのではないだろうか。

人類が直面している、生存にかかわる最大の課題は、食料とエネルギーである。地球上の一部のみでの飽食現象で人類全体の食料問題を鑑過してはならない。これと並んで重要なエネルギーに関して、現在の我々の対応は、神の目にはまさに狂気のさたと映っているのではなかろうか。汲めども尽きぬ神の恵み、とあって石油をふんだんに使っていた頃とは技術や社会の、地球上におけるスケールが異なっているのである。何万年、何億年かかって固定した太陽エネルギーを、長い歴史の流れでみれば、ほんの一瞬に費消して地球のバランスがくずれないでおかれるはずがない。大気中から取り除かれた炭酸ガスが大量に放出され、その地球環境に及ぼす影響が心配されている。しかも炭酸ガスを固定化する植物をどんどん減らしながら。

輝く太陽と青い空、緑の大地。自然の一構成員である人間がこの地球上に生きていく。自然を大切に、共存してゆかずに未来は有り得ない。このためには、新しい視点にたった技術及び、社会システムの構築と、長期的な視点を持ったエネルギー戦略が不可欠である。光技術の発展とクリーンなエネルギー開発を旨とするレーザー技術に寄せられる期待は大きい。

\*大阪大学レーザー核融合研究センター (〒565 吹田市山田丘2-6)

\*Institute of Laser Engineering, Osaka University (2-6, Yamada-oka, Suita, Osaka, 565)